

部活動について

【小学校・小学部】

- ・部活の種類が豊かな高校にかよいたい。
- ・帰宅部があって楽しい高校生活が送れるところ。

【中学校・中学部】

- ・今までの学校になかった珍しい部活（いっぱい部活がある高校）があってほしい。
- ・部活動にも集中して取り組める高校で学びたい。

【小学校・小学部、中学校・中学部、高等学校・高等部】

- ・運動部（野球、陸上競技、サッカー、バスケットボール、柔道など）の強い高校に通いたい。
- ・文化部（郷土芸能、軽音楽、吹奏楽、美術、将棋、eスポーツなど）がある高校に通いたい。

県教育委員会からのコメント

○学校部活動は生徒にとって望ましいスポーツ・文化芸術環境となるように、技能などの向上や大会などで好成績を収めること以外にも、気軽に友達と楽しめる、適度な頻度で行えるなど多様なニーズに応じた活動を行うことができるなど、各学校において工夫して取り組んでいます。生徒の皆さんは、仲間と協力してアイデアを出しながら、やってみたいことの実現に向けて取り組んでみてください。

○「岩手県教育振興計画」（2024～2028）には、「文化部の生徒を対象とした技能講習会、文化芸術活動に関する講習会や発表の機会を支援すること」を盛り込んで、文化部の活動に取り組む生徒を応援しています。

校則について

【小学校・小学部】

- ・髪を染めてもいい学校がいい。
- ・校則はメイクなどもOKにしていいたいと思う。大人になったら、メイクをできるようになってたほうがいいから。バイトもありが良と思う。
- ・制服が可愛い高校に行きたい。

【中学校・中学部】

- ・女子用のスラックスがある学校を増やしてほしい。
- ・私服登校ができる高校にかよいたい。
- ・バイトをしてもいい高校に行きたい!将来のことで自分で起業したいからそのための貯金をしたい。

【高等学校・高等部】

- ・見た目で人を判断してはいけないと言うくせに整容点検などでツブロック禁止や前髪が目にかかってはいけないなどの人を見ただ目で判断するような校則が矛盾していると思うのでそのような矛盾のない高校に通いたいです。
- ・時代の変化に合わせて、スマホ使用の制限を少し緩くして欲しい。また、私の高校は登下校が必ず制服となっているが、夏は本当に暑くて熱中症の恐れもあるので夏だけでもいいからジャージ登下校を可能にしてほしい。
- ・ブラック校則ではない学校。

県教育委員会からのコメント

○現在、性の多様性を尊重する観点などから、制服を選択制にする学校が増え始めています。今後、そのような動きがより一層活発になると思います。

○地球温暖化の影響で、夏は特に、朝夕も含めて暑さが厳しい日が多く、学校での生活も大変だったと思います。

みなさんが熱中症にならないように、学校では、国のガイドラインに沿って、その日の天候によって部活動なしなどの判断をしています。
今後、暑さに関するみなさんのとらえが判断の参考になるように、働きかけていきます。

○校則や校内の決まりは、生徒のみなさんが健全な学校生活を送り、よりよく成長していくためにあるもので、生徒のみなさんの自主性を伸ばすようなものであることが大切です。

○「岩手県教育振興計画」(2024～2028)には、「各学校で校則などの見直しを行うこと」などを盛り込んでいます。校則や校内の決まりについて、みなさんの意見を尊重しながら、必要な見直しが行われるように各学校へ働きかけていきます。

学校の安全・安心について

【小学校・小学部】

- ・周りの仲が良く、安心して学習することができるような学校に通いたい。
- ・差別や偏見などがなくみんなと楽しく勉強ができる高校がいいです。
- ・一件もいじめがない高校にかよいたい。毎年いじめで自殺をしてしまう若者が日本では多いので定期的に命の大切さを高校でも呼びかけてほしいです。

【中学校・中学部】

- ・性別の差が関係ない学校。
- ・不安だったり心配なことがあったらどんなことでもすぐに安心して相談できる学校へ通いたい。安心して学校生活をおくることのできる学校へ通いたい。

【高等学校・高等部】

- ・秩序が守られた学校で学習したい。
- ・生徒が先生に相談事がしやすい環境の学校が良い。

県教育委員会からのコメント

○全ての児童生徒が安心して学校生活を過ごすことができるように、先生方が授業や行事の中で、ありのままの自分を認めて、充実した気持ちになれる心の居場所をみなさんに用意しています。

また、全ての児童生徒が自分の考えで、他の人と協力して取り組む絆づくりの場が守られることを各学校に呼びかけています。

例えば、授業でお互いの考えを伝え合うような学び合いをしたり、授業や行事のまとめとして友達から学んだことやお互いのよさなどを振り返ったり伝えたりすることです。

○お互いのよさや可能性を認め合う活動や人権教育の充実を目指していて、先生方が子どもの人権について理解を深める研修に参加しやすくする取り組みをしています。

○各学校では、「いじめは人間として絶対に許されない」意識を学校教育全体で生徒一人一人に浸透させる取組をしています。また、先生方が授業や行事の中で、全ての児童生徒が安心して過ごせるように、いじめが起きにくい学校・学級づくりに取り組んでいます。

○児童生徒が自分の考えで取り組んだ、いじめ防止のよい例を各学校に紹介するなどして、いじめが起きないように防止する努力をしています。

初めの段階のいじめも含めて、いじめがあることを学校が積極的に認めて、市町村教育委員会、県教育委員会に報告するように呼びかけています。

各学校では、いじめられた児童生徒の気持ちを聴き取り、いじめられた児童生徒に寄り添い対応してきました。引き続き、いじめられた児童生徒の気持ちを尊重しながら対応していきたいと思います。

施設について

【小学校・小学部】

・部活や、勉強などの設備がしっかりしている高校。

【中学校・中学部】

・校内は清潔感があってほしい。(トイレなど)

【高等学校・高等部】

- ・綺麗で新しく、設備や椅子、机などが壊れていない校舎で勉強したい。
- ・男女トイレが校舎内の各階に置かれているが、そこに男女共用トイレを設置して欲しい。
- ・トイレが和式が多いが、これから使い慣れていない人が増えていこうし、特に夏場臭うので洋式に改修したほうがいいと思う。
- ・校舎が綺麗なのは絶対条件。私が通っている高校の今の校舎が限界を迎えていると思われる。それにより私たちは厳しい環境で学習をしている。高校の入学希望者が減りすぎているのも、校舎の荒廃によるものであると考えられている。現在、過疎化が著しく進んでいる地区の、唯一の進学校として生きていくために、校舎の建て替えを検討してほしい。
- ・大学進学に向けた個別学習ができる場所が確保できる学校がいい。

県教育委員会からのコメント

○県立高校の校舎などの整備については、安全・安心で充実した学校生活を送ることができる教育環境を目指して、県全体の施設が古くなってくる状況などをふまえて、計画的に取り組んでいきます。

○県立高校には、建てられてから50年以上経った校舎などが23校あります。学校施設が古くなっていく中で、一斉に建て直しや建物の修理をする時期を迎えて、施設の整備を求められています。

現在、学校が建てられてからの年数だけではなく、建物の設備の品質の状況に応じて、建て直しや建物の修理を行っています。必要な高校では、屋上の防水や暖房の配管の修理のほか、トイレの洋式化などを行っています。

今後も、十分な安全性、防災性、防犯性や衛生的な環境を備えた安全・安心な教育環境を目指して、計画的な整備に取り組んでいきます。

教員について

【小学校・小学部】

- ・分かりやすく授業をしてくれる高校にいきたいです。
- ・先生が悪いことをしない。安全。

【中学校・中学部】

- ・大学進学、就職に向けての学習、を全校の職員生徒で積極的に行い、職員の方々は生徒が分かりやすいように、遅れが無いように学習を行ってくれたら生徒全員の学力が上がると思います。
- ・生徒一人ひとりに寄り添い、質の高い学習ができる学習ができる高校で学びたい。
- ・私はまだ中学生で高校のことはよくわかりません。ですが教員の方々が他の教員の授業を学ぶ機会がないと聞きました。研究授業を率先して行うことで生徒にとっても学びが深まると思います。ぜひお願いします。
- ・生徒の立場でいうのは大変憚られる気がしますが受験対策をするにあたり、教師陣のスキルも問題になると考えられるので、県内全ての高校でなるべく高いスキルを持った教員を配置できるように育成してほしいと思います。

【高等学校・高等部】

- ・先生にもICTに不慣れな方が多い中で、無闇矢鱈にパソコン等を授業に取り入れようとするのは非効率的だと思います。
- ・学力の向上が急務だと思う。教員の、特に小学教員の給料を増やし、優秀な先生による質の高い授業を提供しなければ岩手県の未来は無いと考えている。自分は共通テスト最下位を何年も取るような県の学校に自分の子どもを通わせたいとは強く思わない。
- ・もっと丁寧に分かりやすく、一人ひとりにあった授業をして欲しいです。

県教育委員会からのコメント

○岩手県では、次のような先生を求めています。

- ①分かりやすい授業ができ、子供たちに確かな学力をつけることができる先生
- ②子供たちに対する愛情をもち、一人ひとりの子供と真剣に向き合うことができる先生
- ③豊かな人間性をもち、幅広い教養と良識を身に付けている先生
- ④学校で働く者としての使命感や責任感をもっている先生

○岩手の先生は、すべての子供たちを個人として尊重し、「お互いに幸福を守り育てる希望郷いわて」の実現を目指しています。

(コメントは、次のページに続きます。)

県教育委員会からのコメント

○岩手県では、それぞれの先生が、先生としての経験年数などに応じて身に付けて欲しい知識や技能をまとめた「校長及び教員としての資質の向上に関する指標」（先生としての目標）を作っています。この指標（目標）に沿って、それぞれの先生が、様々な研修（勉強）をしながら、知識や技能を高めるための学びを重ねていけるように努めていきます。

「岩手県教育振興計画」（2024～2028）でも、「先生能力向上のための研修を充実すること」としているため、これからも、みなさんに信頼される先生であり続けられるように取り組んでいきます。

○教員のICTを活用した指導力の向上については、先生方みんなが受けなければならない研修に、ICT研修を取り入れるなどしています。今後も引き続き、研修などを通じて、ICTを効果的に授業に取り入れることができるよう取り組んでいきます。

高校入試について

【中学校・中学部】

- ・なんで公立高校の推薦をなくしたのか知りたい。
- ・なぜ特色入試をやるんですか？

県教育委員会からのコメント

○中学生の自主的・自発的な部活動や多様な活動の状況を踏まえて、推薦入試は、令和7年度入試から特色入試に変更しました。

特色入試では、部活動の実績（大会の成績）を出願と要件とせず、生徒が、各高校が示す「求める生徒像」を参考にして、主体的に出願することとしました。また、選抜にあたって、実績を評価するのではなく、具体的にどのような活動を行ってきたかを参考にし、その活動をとおして身につけた力を各学校の検査を通じて評価します。

これによって、生徒一人一人が、その様々な資質・能力や興味・関心、適性に基づいて、より一層、適切に高校を選択できるようになるものと考えています。